



## 【北区】学校ファミリー構想による連携

### <目的>

自己革新し続ける新しい学校づくり、子どもたちの教育環境の整備、地域の教育・子育てプログラム全体の改善・充実を図り、地域の学校として同校種間の連携や異校種間の連携・接続、地域の教育資源の活用方法などに工夫・改善を加えた新しい教育を推進していく。

### <考え方>

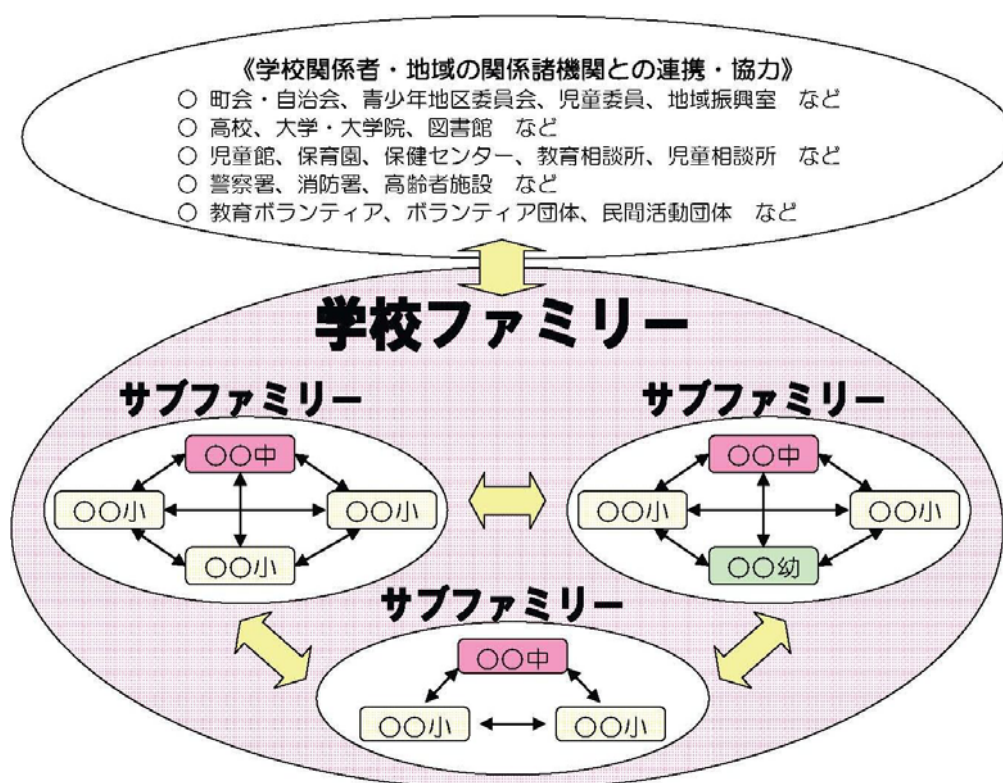
中学校1校と通学区域が重なるいくつかの小学校・幼稚園から構成される近隣複数校がネットワーク化して、その協力、実践の下、質の高い教育を実現

### <実施方法等>

- ・ 小学校38校、中学校12校
- ・ 区内全域において中学校1校と通学区域が重なるいくつかの小学校・幼稚園から構成される近隣複数校がネットワーク化して、その協力、実践の下、質の高い教育を実現しようというもの
- ・ 学校間連携の内容は以下の8項目
  - ①情報交換
  - ②授業交流（幼稚園、小学校、中学校）
  - ③教員研修の合同実施
  - ④共同の教育課程（カリキュラム）開発
  - ⑤学校運営面での連携・協力
  - ⑥学校行事での交流
  - ⑦関係諸機関、地域の人との交流を基にした教育活動の推進
  - ⑧その他の連携・交流

### <課題>

- ・ 学校種間の連携・接続のあり方について
- ・ 小学校・中学校の9年間を見通した教育内容・方法を継続的・恒常的に実施できる体制について（一貫教育への取り組み）



(北区「学校ファミリー構想概要リーフレット」より)

## 【奈良市（奈良県）】

### <目的>

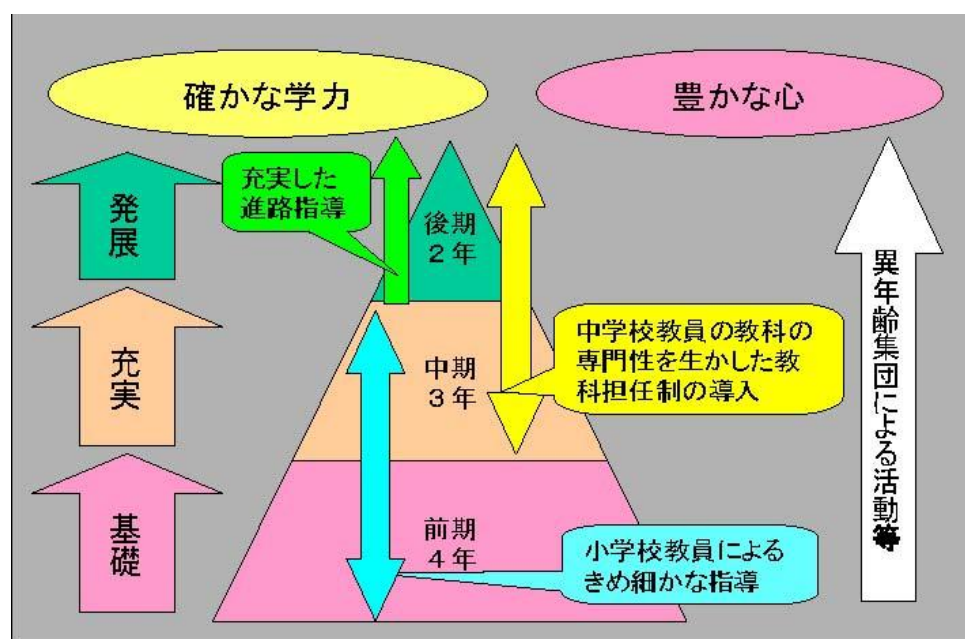
① 世界遺産を核に交流する子ども② 歴史、文化、自然を未来につなぐ心豊かな子ども③ 郷土に暮らすことに誇りと喜びを感じることをできる子どもを育てるという目標を達成するために、小中一貫教育を行い、教育課程の連続性を生かし、児童生徒一人一人に確かな学力を身につけさせ、また、子どもの発達段階に応じた適切な指導により、個の発達を促進するとともに、9年間の異年齢集団の活動を通して、思いやりや責任感など豊かな心を育み、個の自己実現を図るため小中一貫教育を実施する。

### <考え方>

小中一貫教育では、6・3制を維持し、小学校と中学校のそれぞれのよさを生かしながら、小中学校の教員が一体となって、9年間の連続性・継続性を重視したきめ細かな教育を行う。

前期4年（小学校1年～4年）、中期3年（小学校5年～中学校1年）、後期2年（中学校2、3年）の3つのブロックにわけ、子どもたちの発達に応じた教育を行う。

9年間の異年齢集団の活動を通して、思いやりや責任など豊かな心を育む。



(奈良市「小中一貫特区ニュース」より)

### <実施方法等>

- ・ 幼稚園41園、小学校49校、中学校21校
- ・ 平成17年度から、「世界遺産に学び、ともに歩むまち一なら」小中一貫教育特区のパイロット校として田原小学校及び田原中学校で小中一貫教育を実施
- ・ 小中一貫教育の新しいパイロット（先導）校を設置し、大きく「一体型」（同一施設・隣接施設）と「連携型」（施設分離）の2種類の方法で市全域に広げ

て実施予定

- ・ 新設 3 教科（構造改革特別区域研究開発学校設置事業）
  - ① 英会話科 1 年生～9 年生 ALT の活用
  - 外国語科 5 年生～9 年生 中学校外国語科教員
  - ② 情報科 3 年～9 年生
  - ③ 郷土「なら」科 5～9 年生 中学校社会科教員
- ・ 小・中学校教職員の協働による質の高い授業
- ・ 9 年間を見通したカリキュラム編成
- ・ 小・中学生の交流
- ・ 保幼小連携の実施

<課題>

- ・ 地域格差が大きいため、その地域に応じた一貫教育等を実施していく必要がある。
- ・ 新たなカリキュラムに対応するための、教職員への負担の増加